

番号	委員からの質問・意見	事務局回答
1	これまで蓄積してきた結果について全体を通してまとめて分析することは意義がある。茅ヶ崎市に様々な良い公共空間がある中で空間同士の比較だけでなく、複数年に渡って調査している場所は過去との比較ができる。コロナ禍前後でも違いがあると思うので、その点を含めて分析ができると良いと思う。その結果が公共施設の新築や公共空間の再整備の際にも役立つと思う。それをまた次期景観計画や具体的なプロジェクトにぜひ生かしていただきたい。（三友委員）	次期景観計画に活かせるようまとめたいと思います。
2	アンケートだが、過去にも同じような事例があったとしたら、それと比較するのもおもしろい。あと、アンケートの中で景観に関する用語の解説があると、興味を持ってくれた人に対して丁寧な対応になると思われる。アンケートの間 3 の中で年数について「関わり」という言葉があるが、茅ヶ崎市と様々な関わり方をしている人々がいる中で、この言葉にはどのような意味があるのか。（神保委員）	アンケート用の解説を作成し、リンクに飛べるようにしました。
3	用語の解説に関して、近年では多くの自治体の景観計画で用語の解説をつけている。市民の方に分かりやすい景観計画であるためにも是非検討していただきたい。（三友委員）	
4	新しく転入してきた人たち、以前より住んでいる人たち、そういった多様な主体の中ではどんな風にまちが捉えられているのか、様々なニーズに合わせたまちづくり、という中にこれからの景観づくりの材料があって、それらがまた景観づくりや茅ヶ崎らしさの PR につながる事が望ましい。（神保委員）	アンケート結果からどんなニーズがあるのか確認しつつ、進めるようにしたいと思います。
5	景観審議会委員になってから景観ポイントを知って見ていく中では、そういったところは意識して守られているので、あまり変化は感じられない。ただ、それ以外の市内の様子を見ていると本当に変わってきている。例えば大きな敷地で緑にあふれていた住宅が取り壊され、小さな住宅になり、あまり緑が植えられる状況でなくなったり、茅ヶ崎らしさがなくなっているように感じている。また、そういったことの懸念をどこに訴えていけばいいのかということも疑問である。景観計画評価という部分にあっては、そのようなことはあまり反映されていないように思う。ビューポイントを大事にすることはもちろん重要だが、市内のポイント以外の景観についても配慮が欲しいと思っている。（清水委員）	宅地分譲を止めていくというような具体性を持つものは確かに景観計画には載っておらず、計画に落とし込むこと自体は難しいと思われます。それは都市計画の部分であり、これから都市マスタープランや立地適正化計画を作っていくことになると思いますので、上位計画の方針等も鑑みて景観計画に今後そういったことを反映していくことになるのかなと思います。緑の基本計画もあるので、連携をとってどういったら守ることができるか考えていく必要があります。景観計画において沿道緑化については、かねてから重要視しており、景観形成基準に則ったチェック項目でもあり、業者に対して緑化を訴えるなど積極的なアピールも行っているところです。
6	都市計画上の状況も理解できるが、せっかく景観計画も評価の段階であるので、今後の景観向上につながるよう一緒に考えていけたらと思っている。（清水委員）	都市マスタープラン、緑の基本計画、景観計画というのがこれから一緒に改定作業に進んでいます。当課では緑の基本計画も所管しており、緑化についてはもちろん注力しなければならないところで、数字の上でも重々承知はしています。もともと別荘文化のある地域として、宅地分譲されていくという中で、「一軒の家からはじまる景観まちづくり」という冊子を作成し周知啓発を図っています。宅地開発されるときは緑化と既存樹木の保存についてお願い、またさらなる緑化についてもお願いしているところです。ご指摘いただいた点については改めて課題として、これから進めていく景観計画の中でも力を入れて改定していきたいと思っています。

7	事業評価をやるときによく言われるのが、結果と成果を分けて考えると良いということ。この調査の中の結果にあたる部分と成果にあたる部分は分けて調査に臨んだ方が良いと思った。評価事項の①～⑥の項目の中にこれはやったこととして、結果でこうなった、それを踏まえて例えば評価事項④の「過ごし方調査」は成果に近いものではないかなと思う。要は景観計画を作って、こういうことをやっていったら、例えば市民の過ごし方が変わったとか、そういったことをきちんと把握するという構造をもう少し明快にしたほうが良いと思った。それを追加する、深掘りするという意味では先ほど意見があったアンケート調査などで「景観が守れたり、あるいは形成されてきたことによって市民の行動変化が起こった」とか、そのようなことを把握できる項目があると「景観がこうなったからより、市民の生活がこういうふうに変わっていった、だから景観は守るものだよ・建設的なんだよ」というきちんと説明できる資料になることができると思う。（上野委員）	アンケートの中で景観のみを起因とした行動変化を把握することは難しいため、成果の部分については、過ごし方調査の評価の中で検討したいと思います。
8	「茅ヶ崎らしさ」について「過ごし方調査」の調査方法の説明を拝聴していないので理解が浅いが、上野先生のご指摘の通り、「結果」と「成果」が切り分けられるように、調査方法に工夫が必要だと感じる。「過ごす」という行為が何によって誘因されたものであるのか、その誘因要因が景観施策によって発生したものなのか、調査の工夫によって、非常に有用な調査結果となるのではないか。（荒井委員）	
9	期末評価は節目であると同時に、次の取り組みへの布石の意味もある。過去の結果を活かし、いろいろとバラバラになっている情報を俯瞰してまとめて一つのストーリーにする、その中に市民が関心を持てるような話題を作ってほしいと思っている。「この分析のあのグラフが新聞に載ったらバズるかも…」というPRのイメージを思い描きながら、準備を進めていってもらえればと思っている。（高橋委員）	景観や市の取り組みを広報する良い機会と捉えて、評価・改定を行いたいと考えています。
10	アンケートも用語説明もひとつのPRのツールである。ブランディングの言葉ではタッチポイントと言うが、一般の市民が茅ヶ崎市の景観まちづくりに触れるひとつの接点だと思って、そこへの訴求力は大事にしてほしい。WEBアンケートは紙のアンケートではできないことができるという特徴があるので用語説明のリンクを張るだとか、またリンクにすると回答の効率が下がるということであれば説明がポップアップで出てくるとか、やり方はいくらでもある。多少設問が長くなってもWEBアンケートの流れがしっかりしていればリズムで答えられるので、用語説明がPRの一環となる点も意識して考えてもらえればと思う。（高橋委員）	アンケート用に解説を作成し、アンケート内にリンクを貼るように検討しましたが、ウィンドウが切り替わらず表示されてしまう作りであったため、アンケート案内のHP上で確認できるようにしました。【参考資料参照】
11	審議会委員に負担を増やすことになるが、審議会委員もそれぞれの立場で自分たちの専門分野で情報を集めて参加しているので、そこを茅ヶ崎市の先進性の部分に組み込んでもらえるように、もっと委員を活用していいのではないかと考えている。これから各委員が評価シートを記入していく際に、集約化は難しいかもしれないが、それぞれの専門の立場から「こういうことが必要なのではないか」とか「こういう他自治体の事例があるから見ておいた方がいいのではないか」とか、そういう意見も書き込めるようにしてはどうか。われわれ審議員の立場や知見を、茅ヶ崎市の景観計画の先進性を育てるために活かす工夫を検討してほしい。（高橋委員）	
12	アンケートについて問1ー3「関わり」は「関わり方」とすると意味が伝わりやすくなると感じた。（荒井委員）	『関わり方』に修正しました。
13	アンケートについて問8「ここ10年間で茅ヶ崎市の景観はどう変化したと感じますか」について 「茅ヶ崎市」というくくりが少々大きすぎる印象である。 問6の「茅ヶ崎の景観への満足度」については、諸々の市内の景観を比較して全体的な満足度を回答できる。 問7で「特に好きな場所」を聞いた後の問8なので、「特に好きな場所の景観に引っ張られた変化の回答」になるのか、「変化が大きかった場所の景観の変化に関する回答」になるのか、 バイアスのかかり方が色々想定できる。正確に分析する予定であれば、質問者の意図が伝わる説明文にした方が良いのでは。（荒井委員）	バイアスがかかりづらくなるよう構成を事実認識→具体的経験→満足度の順番になるようにし Q8「ここ10年の変化についての印象」→Q9「そう感じた理由」→Q6「満足度」の順に変更しました。 また、Q7「特に好きな場所」はQ9と内容が若干かぶるためQ7の設問は消しました。 特定の場所については問12の「茅ヶ崎駅北口周辺の満足度」やQ15「茅ヶ崎駅南口周辺の改善点」で確認しているため、あえてここでは全体の印象を聞こうと考えています。そして具体的な場所についてはQ9（現Q7）で自由記述で聞き取りを行おうと考えています。

14	行政の行ってきた計画でもあるので、今までやってきたことの結果、生み出された成果は分かりやすくしたいと思う。上位計画で書かれていないことを描く難しさもあると思うが、一方で、生活者としてみたときに、住宅地の景観について何も触れないのも不自然じゃないかという部分もある。既に書いてある内容でちょっと効果が薄れてきていると思った場合には、打ち出し方を切り替えて、語り直しをするかたちで、上位計画に記載のない内容についても市民の感覚でカバーしている景観計画であることを意識してほしい。（高橋委員）	評価を行っていくうえで、委員からの意見やアンケート結果を踏まえ改定に繋げて行きたいと考えています。
15	清水委員のご指摘への回答にあるように「緑の基本計画」と「景観計画」における評価の連動は重要な観点かと思う。今後、両計画の連動を目指すのであれば、双方の結果を併せて分析できるように結果整理のやり方を事前に想定しておく必要がある。同じ地点や事象に関する評価に関しては、両計画の中で役割分担や上位計画への投げかけを行えるようにできればよいと思う。（荒井委員）	
16	全体として、行政側のハード整備や点検の進捗管理は緻密に行われているように見えますが、市民が景観を「自分事」として捉えるような主体的な関わりについては発展の余地があると感じました。（田邊委員）	
17	市民参加の充実資料からは「市民が景観を見つけ、育てる」という双方向の取り組みがやや不足している印象を受けます。Instagramでの動画投稿や高頻度の更新など、周知活動には力を入れているようですが、一般の市民が「景観まちづくり」に参加する方法が、少なくとも現在の資料では「Instagramを見る」か「行為の届出をする（事業者）」という両極端なものになっており、景観を見て歩く、あるいは対話を通じて景観の価値を共有するといった、景観に対して一定の興味を持った中間層の参加機会の充実が期待されると感じました。（田邊委員）	
18	例 ・景観まち歩き・フォトワークショップ：報告書にある定点観測の地点を市民と一緒に巡るツアーを開催しどの角度が一番茅ヶ崎らしいかを対話する。Or今般指定した「えぼし岩」が見える場所を巡り、景観資源が美しく見える眺望点のあり方や景観上の支障物の改善策などを各自撮影した写真を用いて議論する。など、市民の意見も取り込んで市民を味方につけるような施策です。 ・私の景観ポイント公募：市役所が決めた24か所以外に、市民が日常で発見した景観を「ちがさき景観資源」の予備軍として公募・SNSで共有する仕組み ・Instagramの情報の還流への活用：市が発信したInstagramに対する市民のリアクション（コメントなど）の記録や分析、指定のハッシュタグで市民にお気に入りの場所の景観写真を投稿してもらうような仕組み ・世代間の継承（景観教育）：里山公園や市内の歴史的資源を活用し、次世代が茅ヶ崎の景観価値を知るための学習プログラムの展開 など色々考えられそうです。（田邊委員）	